

桜

相 田 浩

今年も高田城址公園の桜は、見事な花を咲かせました。私が上越に転居してきたのは、今から22年前です。当時は、公園近くの駐車場も利用できましたので、混雑する前に出かけるとすぐに花見ができました。また、お花見会場ではコンロを持参して多少の調理も可能でしたので、同僚と暖かいおつまみとお酒を片手に、桜を愛でることをしていました。夜に初めてライトアップされた桜を見たときは大変感動しました。今でも華麗さに心を奪われるようです。これまで100万人観桜会として誘客し、多くの観光客で大変な混雑でした。新型コロナの影響で、多少観光客も減り、露店も激減しました。しかし、そのことで桜の花がよく見えるようになりました。地元の特権としてこの観桜会はこのままでいて欲しい気がします。

柏崎市へ通勤することで気づいたのですが、米山と大潟の間では、高速道路沿いの桜並木と国道8号線沿いの夕日を背景とした桜はそれはそれは見事です。当地へ赴任し、緊張でいっぱいだった頃に、少しばかりの休息を得られた記憶があります。

当地の桜も見事です。私が最も好きなのは、故郷の桜並木です。春の入学式頃に満開を迎え、登下校の時に桜吹雪を吹きかけてくれた桜が、今も思い出されます。残念なことに大学へ進学して以降、この桜を見る機会がありません。それほど遠方ではないのですが、仕事にかこつけて、最近では新型コロナのせいにして、帰省しておりません。老母がおり、毎週末に「変わりない?」「大丈夫だよ」程度の電話でのやり取りをして罪滅ぼ

しをしているつもりになっています。母は新潟の鉄道病院で看護師として働いておりました。もしかすると一緒に働いておられた方がおられるかも知れません。多少なりとも医療に接する機会があり、医師を志したのはその影響が大きかったと思います。若い頃から病氣一つしなかった母が、数年前に脳梗塞で倒れました。この折は、自分の親不孝を悔やみました。幸い一命はとりとめ、リハビリも順調に進み、ほぼ元通りに近い生活ができるようになりました。自分が大病をしたにも関わらず、会うと必ず私の健康のことを心配します。離れていて電話での安否確認くらいが適当なのかもしれません。でも、この母に何かあれば、故郷の桜を見る機会が失われるのだなという感傷に浸ることもあります。

まだまだ新型コロナの影響からは抜け出せませんが、柏崎総合医療センターでは、今年も新人を迎える季節になりました。看護師22名、医師2名、薬剤師1名、事務職1名、栄養科員1名が社会人としての第一歩を踏み出しました。特に今年は基幹型臨床研修医2名が研修を開始しています。何としても研修医を確保したいと願っており、県の後押しや、市の協力などもいただきました。今後は彼らを一人前の医師として社会へ送り出していけるよう、私共も緊張感をもって指導をしていきたいと思えます。医師会の先生方には折に触れいろいろご指導をいただくこともあろうかと思えますが、何卒よろしくお願い申し上げます。数年後に彼らが満開の桜に劣らない、大輪の花を咲かせてくれることを期待したいと思います。

